

二六八七番

桜麻さくらあまのの 麻生あまをの 下草したくさ 露つゆしあれば 明あかしてい
行け 母ははは知しるとも

二六八八番

待まちかねて 内うちには入いらじ 白しろたへの 我わが衣手ころもで
に 露つゆは置おきぬとも

二六八九番

朝露あさつゆの 消易けやすき我あが身み 老おいぬとも またをち反かへ
り 君きみをし待またむ

二六九〇番

白しろたへの 我わが衣手ころもでに 露つゆは置おきぬ 妹いもは逢あはさ
ず たゆたひにして